

# 平成 2 1 年度事業報告書

〔 平成 2 1 年 4 月 1 日から  
平成 2 2 年 3 月 3 1 日まで 〕

## 目 次

I. 概 要	1
II. 理 事 会	2
III. 評 議 員 会	3
IV. 主要事業活動	4
1. 日韓ビジネス交流促進事業	5
(1) 日韓中小企業ビジネス促進事業	
(2) 日韓中小企業商談会	
2. 環境・省エネルギー関連事業	7
(1) 環境・省エネルギー関連セミナー	
(2) 環境・省エネルギー技術者専門セミナー	
3. 地域間交流事業	9
(1) 九州・韓国産業交流事業	
(2) 北陸・韓国産業交流事業	
(3) 石川・韓国産業交流事業	
(4) 九州・韓国南部クラスター交流事業	
4. 産業・技術交流事業	11
(1) 先進企業技術交流事業	
(a) 日本語教育	
(b) 企業実習	
(2) 技術普及事業	
(3) 日韓中小企業経営者交流事業	
(4) 理工系大学院生研究支援事業	
5. 調査・広報事業	17
(1) 日韓経済連携関連事業	
(2) 各種調査・研究事業	
(3) 財団ホームページ整備	
V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催	20
VI. 事務局人事	23
VII. 財団主要活動	24

## I. 概 要

当財団設立後、事業を開始して以来17年が経過した。これまで日本政府、及び関係経済団体のご協力と日本側企業の多大なご支援により、韓国の中堅・中小企業の経営をはじめ多くの分野に於いて事業の成果が上がってきている。この17年間で当財団の事業に参加した韓国人数、韓国企業数は、研究支援事業、セミナー等で約4,700名、産業人の交流事業で約1,450名、また生産性向上協力事業等を実施した企業は約390社、また商談会等に参加した日本、韓国両国の企業数は1,050社を超える。

財団活動に対しては、年を重ねる毎に改めてその役割が認識され、今後の活動も期待されている。日韓両国政府、関係者から良い評価を頂き、また事業に参加した韓国企業の社員やセミナーの受講者からも、講師・専門家の助言や、指導内容が大変有益であったと感謝されている。

これまでも度々言われて来たことであるが、韓国経済の下支えとなるべきいわゆる部品・素材産業の成長が未だ十分でない状況下、資本財、部品等の供給の大半を日本や米国に依存せざるを得ない経済環境と産業構造は大きく変わっていない。そのため、対日貿易赤字は依然として減少しておらず、むしろ増加の傾向にあり、引続き韓国の中堅・中小製造業への更なる育成・強化が必要とされている。

平成21年度は、基本財産の運用益の他に、政府からの拠出金146,036千円（外務省39,246千円、経済産業省106,790千円）を得て運営並びに事業を実施した。

1. 当年度中、理事会2回、評議員会3回を開催し、財団運営の重要事項について審議、議決を行った。
2. 平成21年度は、平成20年度第3回及び平成21年度第1回理事会で承認された事業計画に従い下記事業を実施した。

(1) 日韓ビジネス交流促進事業	2事業
(2) 環境・省エネルギー関連事業	2事業
(3) 地域間交流事業	4事業
(4) 産業・技術交流事業	5事業
(5) 調査・広報事業	3事業
3. 日韓両財団の共同事業  
日韓中小企業ビジネス促進事業、日韓中小企業商談会、環境・省エネルギー関連セミナー、環境・省エネルギー技術者専門セミナー、九州・韓国産業交流事業、北陸・韓国産業交流事業、石川・韓国産業交流事業、九州・韓国南部クラスター交流事業、先進企業技術交流事業（日本語教育・企業実習）、技術普及事業、理工系大学院生研究支援事業の12事業を実施した。
4. 諸会議
  - (1) 日韓両財団第16回連絡協議会を平成21年(2009年)4月17日韓国ソウルにて開催した。
  - (2) 日韓両財団第17回連絡協議会幹事会を平成21年(2009年)7月28日東京にて開催した。
  - (3) 日韓両財団第17回連絡協議会幹事会実務者会議を平成21年(2009年)11月12・13日ソウルにて開催した。

以上が、平成21年度の事業及び諸会議の概要である。

## Ⅱ. 理 事 会

今年度は2回の理事会を開催。飯島英胤理事長（東レ株式会社特別顧問）の議長のもとに議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく可決承認された。各理事会の概要は以下のとおりである。

### 1. 平成21年度 第1回理事会

平成21年6月24日（水） 午後2時20分～2時40分

当財団会議室

出席者 22名（内訳：理事本人 7名、書面表決 9名、表決委任 6名）

欠席者 1名

〔理事総数 23名〕

〔議 題〕

議決事項

第1号議案 平成21年度予算修正案承認の件

第2号議案 平成20年度事業報告(案)承認の件

第3号議案 平成20年度収支決算報告(案)承認の件

第4号議案 評議員選出承認の件

### 2. 平成21年度 第2回理事会

平成22年3月25日（木） 午後3時30分～4時00分

当財団会議室

出席者 22名（内訳：理事本人 6名、書面表決 9名、表決委任 7名）

欠席者 1名

〔理事総数 23名〕

〔議 題〕

議決事項

第1号議案 平成22年度事業計画(案)承認の件

第2号議案 平成22年度収支予算(案)承認の件

第3号議案 評議員選出承認の件

第4号議案 退職金支給規則一部変更の件

以 上

### Ⅲ. 評 議 員 会

今年度は3回の評議員会を開催。互選の結果、石田賢評議員（日本サムスン株式会社顧問）が議長となって議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく承認された。各評議員会の概要は以下のとおりである。

#### 1. 平成21年度 第1回評議員会

平成21年6月24日（水） 午後2時00分～2時20分

当財団会議室

出席者 15名（内訳：評議員本人 4名、表決委任 11名）

欠席者 2名

〔評議員総数 17名〕

〔審議事項〕

- ① 平成21年度予算修正案承認の件

#### 2. 平成21年度 第2回評議員会

平成21年6月24日（水） 午後2時40分～3時00分

当財団会議室

出席者 15名（内訳：評議員本人 4名、表決委任 11名）

欠席者 2名

〔評議員総数 17名〕

〔報告事項〕

- ① 平成20年度事業報告
- ② 平成20年度収支決算報告

#### 3. 平成21年度 第3回評議員会

平成22年3月25日（木） 午後3時00分～3時30分

当財団会議室

出席者 17名（内訳：評議員本人 4名、表決委任 13名）

欠席者 0名

〔評議員総数 17名〕

〔審議事項〕

- ① 平成22年度事業計画(案)の件
- ② 平成22年度収支予算(案)の件
- ③ 退職金支給規則一部変更の件

以 上

## IV. 主要事業活動

平成21年3月25日及び6月24日の理事会及び評議員会で承認された事業計画に従い、下記事業を実施した。(主な事業の詳細は5頁以下参照)

【共同】：韓日財団との共同事業

1. 日韓ビジネス交流促進事業
  - (1) 日韓中小企業ビジネス促進事業 【共同】
  - (2) 日韓中小企業商談会 【共同】
  
2. 環境・省エネルギー関連事業
  - (1) 環境・省エネルギー関連セミナー 【共同】
  - (2) 環境・省エネルギー技術者専門セミナー 【共同】
  
3. 地域間交流事業
  - (1) 九州・韓国産業交流事業 【共同】
  - (2) 北陸・韓国産業交流事業 【共同】
  - (3) 石川・韓国産業交流事業 【共同】
  - (4) 九州・韓国南部クラスター交流事業 【共同】
  
4. 産業・技術交流事業
  - (1) 先進企業技術交流事業 【共同】
    - (a) 日本語教育
    - (b) 企業実習
  - (2) 技術普及事業 【共同】
  - (3) 日韓中小企業経営者交流事業
  - (4) 理工系大学院生研究支援事業 【共同】  
(財団法人 日韓文化交流基金 委託事業)
  
5. 調査・広報事業
  - (1) 日韓経済連携関連事業
  - (2) 各種調査・研究事業
  - (3) 財団ホームページ整備

# 1. 日韓ビジネス交流促進事業

事業名	(1) 日韓中小企業ビジネス促進事業 <span style="float: right;">【共同事業】</span>																																																									
事業内容	<p>日韓でビジネスを希望する両国の企業情報・商品情報をネット上で紹介し、韓国との製品・商品の売買、生産委託、技術提携・事業提携、合弁事業等の関心のある企業に対して、ITを活用して日常的に支援する。その手段として日韓ビジネスマッチングサイト（JK-BIC）を開設した。サイト上に相談コーナー・企業情報登録コーナーを設け、ビジネス相談・企業登録を可能とする。商談を希望する企業同士の商談のアレンジを実施する。</p>																																																									
実施状況	<p>日韓間のビジネスを検討しているが、言葉の壁等で悩んでいる中小企業を日常的に支援し、日韓ビジネス連携の促進を図っている。</p> <p>支援した内容は、①各種ビジネス相談、②企業調査、③パートナー探し、④企業の信用情報提供、⑤韓国語によるコミュニケーション、⑥企業訪問・商談アレンジ、⑦通訳の手配等である。</p> <p>支援ガイドラインは、①主な対象企業を部品・素材及びものづくり関連企業、②主な支援対象者を法人（株式会社）に所属される方とし、③支援対象外案件として、食品・飲料品、農林・水産、不動産・金融、医薬品の業種、雇用を伴う人材紹介、大企業同士のビジネスマッチング、又成約後のビジネストラブル対応とした。</p> <p>事業推進の為、日韓ビジネスマッチングサイト <a href="http://www.jk-bic.jp/">http://www.jk-bic.jp/</a>を運営するとともに、(財)韓日産業・技術協力財団の日本ビジネス協力センターと連携し、両国のスタッフがアドバイザーとして言語・商習慣の違い等の壁を取り払い、質の高い情報を通じたビジネス交流を常時可能とする体制を構築した。なおセンターの利用促進の為、広報ツールを制作（パンフレット、ポスター、タペストリー等）し、展示会ブース出展や関連団体広報活動、マスコミ広報等を実施した。</p> <p><b>【事業成果概要】</b></p> <p>2009年4月～2010年3月に受け付けたビジネス相談件数 合計 382件</p> <p>(1) 日本企業からのビジネス相談受付（企業登録案件を含む）：160件</p> <p>(2) 韓国企業からのビジネス相談受付（企業登録案件を含む）：222件</p> <p style="text-align: center;">表. 月別相談受付件数（件）</p> <table border="1" data-bbox="236 1563 1433 1742"> <thead> <tr> <th></th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>累計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本企業</td> <td>15</td> <td>19</td> <td>22</td> <td>16</td> <td>9</td> <td>12</td> <td>12</td> <td>17</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>12</td> <td>14</td> <td>160</td> </tr> <tr> <td>韓国企業</td> <td>36</td> <td>42</td> <td>7</td> <td>25</td> <td>10</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>47</td> <td>17</td> <td>0</td> <td>20</td> <td>222</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>51</td> <td>61</td> <td>29</td> <td>41</td> <td>19</td> <td>17</td> <td>19</td> <td>23</td> <td>52</td> <td>24</td> <td>12</td> <td>34</td> <td>382</td> </tr> </tbody> </table> <p>成約件数：10件</p> <p>成約内容：（輸入）一般産業用スクリュージャッキ、組立作業用安全軍手、オフィス家具、盲人用ネイルクリッパー、LEDメニューボード、NAS-20ハード仕様、220V電源プラグ、大型漢方煎じ器</p> <p>（輸出）施薬機</p>			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	日本企業	15	19	22	16	9	12	12	17	5	7	12	14	160	韓国企業	36	42	7	25	10	5	7	6	47	17	0	20	222	合計	51	61	29	41	19	17	19	23	52	24	12	34	382
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計																																													
日本企業	15	19	22	16	9	12	12	17	5	7	12	14	160																																													
韓国企業	36	42	7	25	10	5	7	6	47	17	0	20	222																																													
合計	51	61	29	41	19	17	19	23	52	24	12	34	382																																													

# 1. 日韓ビジネス交流促進事業

事業名	(2) 日韓中小企業商談会 <span style="float: right;">【共同事業】</span>																																													
事業内容	<p>両国の中小企業の連携による相互補完の関係、「ウィン・ウィン」の関係構築を目的とし、一層の活性化を促す為、日韓両国の財団主催のもと、第12回 日韓中小企業商談会を東京で、第13回 日韓中小企業商談会をソウルで実施した。</p>																																													
実施状況	<p>I. 第12回 日韓中小企業商談会の開催概要（訪日、東京）</p> <p>1) 日程・場所：平成21年7月2日（木）、品川プリンスホテル メインタワー12階「彦根」  7月1日（水） 韓国企業 訪日、大田区工場見学  7月2日（木） 10：00～17：00 商談会  7月3日（金） 韓国企業 帰国</p> <p>2) 商談会：韓国企業20社、日本企業72社の合計92社の参加があった。合計192件の商談が実施され、フォローアップ時点で合計55件の商談が継続中。半年後、成約2件。  委託：三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング(株)</p> <p>II. 第13回 日韓中小企業商談会の開催概要（訪韓、ソウル）</p> <p>1) 日程・場所：平成21年9月17日（木）、ロッテホテルソウル2階「Crystal Ballroom」  9月16日（水） 15：00～18：00 日韓産業技術フェア開会式・特別講演他  9月17日（木） 10：00～17：00 商談会（日本企業25社が訪韓）</p> <p>2) 商談会：本商談会には日本企業22社、韓国企業約122社の合計144社の参加があった。合計で約155件の商談が実施され、5ヶ月後のフォローアップ時点で成約2件。</p>																																													
	<p style="text-align: center;">表 日本側参加企業の一覧</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">企業名</th> <th>商談内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(株) オフセットクリーン</td><td>印刷関連資材及び副資材の調達</td></tr> <tr><td>(株) ケイエスエス</td><td>板金・旋盤・フライスの精密加工部品、購入品の調達</td></tr> <tr><td>椿本興業(株)</td><td>ラック、ピニオン、オイレスメタルの調達</td></tr> <tr><td>大信精機(株)</td><td>専用機部品・治具部品の調達</td></tr> <tr><td>(有) マルエス</td><td>次世代エネルギー関連機器の調達</td></tr> <tr><td>大同資材サービス(株)</td><td>大物製缶品（取鍋）、大物鋳鋼品（スラグパン）の調達</td></tr> <tr><td>日発販売(株)</td><td>自動車精密部品、電機精密部品の調達</td></tr> <tr><td>吉野電機(株)</td><td>射出成形品とプレス加工品の精密複合部品の調達</td></tr> <tr><td>オリイメック(株)</td><td>レベラー架台・アンコイラーASSYの調達</td></tr> <tr><td>蒲田工業(株)</td><td>ゴム・樹脂ライニングの為の母材の調達</td></tr> <tr><td>フドー(株)</td><td>金型、LED照明完成品・部品、CFRP成形品の調達</td></tr> <tr><td>(有) 千葉精螺</td><td>ISO9001取得の真鍮六角ナットの輸出</td></tr> <tr><td>小津産業(株)</td><td>不織布関連製品の輸出</td></tr> <tr><td>太平洋エンジニアリング(株)</td><td>マルチテンプレモーターの輸出</td></tr> <tr><td>藤倉ゴム工業(株)</td><td>工業用ゴム製品の輸出</td></tr> <tr><td>(株) ヒラマツ</td><td>大型車両用一本ブラシ洗車機の輸出</td></tr> <tr><td>日之出産業(株)</td><td>排水処理機能向上、安定化用薬剤および微生物の輸出</td></tr> <tr><td>(株) サンコー</td><td>フレキシブルチューブ、伸縮継手の輸出</td></tr> <tr><td>錦産業(株)</td><td>ウレタンフォーム、両面テープ、フィルム加工品の輸出</td></tr> <tr><td>(株) CTIサイエンスシステム</td><td>電波流速計、電波雨滴計、電波流量計、低周波音計の輸出</td></tr> <tr><td>池田金属(株)</td><td>携帯電話の部品の輸入</td></tr> <tr><td>シンクロテック(株)</td><td>半導体・HDDの輸入</td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">委託：三菱UFJリサーチ&amp;コンサルティング(株)</p>	企業名	商談内容	(株) オフセットクリーン	印刷関連資材及び副資材の調達	(株) ケイエスエス	板金・旋盤・フライスの精密加工部品、購入品の調達	椿本興業(株)	ラック、ピニオン、オイレスメタルの調達	大信精機(株)	専用機部品・治具部品の調達	(有) マルエス	次世代エネルギー関連機器の調達	大同資材サービス(株)	大物製缶品（取鍋）、大物鋳鋼品（スラグパン）の調達	日発販売(株)	自動車精密部品、電機精密部品の調達	吉野電機(株)	射出成形品とプレス加工品の精密複合部品の調達	オリイメック(株)	レベラー架台・アンコイラーASSYの調達	蒲田工業(株)	ゴム・樹脂ライニングの為の母材の調達	フドー(株)	金型、LED照明完成品・部品、CFRP成形品の調達	(有) 千葉精螺	ISO9001取得の真鍮六角ナットの輸出	小津産業(株)	不織布関連製品の輸出	太平洋エンジニアリング(株)	マルチテンプレモーターの輸出	藤倉ゴム工業(株)	工業用ゴム製品の輸出	(株) ヒラマツ	大型車両用一本ブラシ洗車機の輸出	日之出産業(株)	排水処理機能向上、安定化用薬剤および微生物の輸出	(株) サンコー	フレキシブルチューブ、伸縮継手の輸出	錦産業(株)	ウレタンフォーム、両面テープ、フィルム加工品の輸出	(株) CTIサイエンスシステム	電波流速計、電波雨滴計、電波流量計、低周波音計の輸出	池田金属(株)	携帯電話の部品の輸入	シンクロテック(株)
企業名	商談内容																																													
(株) オフセットクリーン	印刷関連資材及び副資材の調達																																													
(株) ケイエスエス	板金・旋盤・フライスの精密加工部品、購入品の調達																																													
椿本興業(株)	ラック、ピニオン、オイレスメタルの調達																																													
大信精機(株)	専用機部品・治具部品の調達																																													
(有) マルエス	次世代エネルギー関連機器の調達																																													
大同資材サービス(株)	大物製缶品（取鍋）、大物鋳鋼品（スラグパン）の調達																																													
日発販売(株)	自動車精密部品、電機精密部品の調達																																													
吉野電機(株)	射出成形品とプレス加工品の精密複合部品の調達																																													
オリイメック(株)	レベラー架台・アンコイラーASSYの調達																																													
蒲田工業(株)	ゴム・樹脂ライニングの為の母材の調達																																													
フドー(株)	金型、LED照明完成品・部品、CFRP成形品の調達																																													
(有) 千葉精螺	ISO9001取得の真鍮六角ナットの輸出																																													
小津産業(株)	不織布関連製品の輸出																																													
太平洋エンジニアリング(株)	マルチテンプレモーターの輸出																																													
藤倉ゴム工業(株)	工業用ゴム製品の輸出																																													
(株) ヒラマツ	大型車両用一本ブラシ洗車機の輸出																																													
日之出産業(株)	排水処理機能向上、安定化用薬剤および微生物の輸出																																													
(株) サンコー	フレキシブルチューブ、伸縮継手の輸出																																													
錦産業(株)	ウレタンフォーム、両面テープ、フィルム加工品の輸出																																													
(株) CTIサイエンスシステム	電波流速計、電波雨滴計、電波流量計、低周波音計の輸出																																													
池田金属(株)	携帯電話の部品の輸入																																													
シンクロテック(株)	半導体・HDDの輸入																																													



## 2. 環境・省エネルギー関連事業

事業名	(1) 環境・省エネルギー関連セミナー	【共同事業】
事業内容	<p>本年度第1回日韓産業技術フェアが開催され、第1日目に特別講演、2日目に環境・省エネルギー、ものづくり、新経営に関するセミナーを実施した。</p> <p>期 日：2009年9月16日、17日</p> <p>場 所：ソウル市ロッテホテル・ソウル クリスタルボールルーム</p> <p>参加者：1日目 韓国中堅・中小企業及び官公庁・マスコミ関係者 180名以上</p> <p style="padding-left: 40px;">2日目 韓国中堅・中小企業 150名以上</p>	
実施状況	<p>1. 概要</p> <p style="padding-left: 20px;">【第一日目】</p> <p>1) 開会式 15:00～15:30 主催者挨拶 韓日産業・技術協力財団理事長 趙錫來氏  <span style="padding-left: 180px;">日韓産業技術協力財団理事長 飯島英胤氏</span>  <span style="padding-left: 100px;">来賓挨拶 知識経済部長官 李允鎬氏</span>  <span style="padding-left: 180px;">駐韓日本国特命全権大使 重家俊範氏</span></p> <p>2) 日韓産業協力功労者表彰 15:30～16:10 12団体・個人</p> <p>3) 特別講演 16:10～17:10 東京電力㈱ 顧問 片倉百樹氏  <span style="padding-left: 100px;">「日本における低炭素社会実現への道のり」</span></p> <p>4) 韓国投資環境説明会 17:10～18:00</p> <p>5) レセプション 18:30～20:00</p> <p style="padding-left: 20px;">【第二日目】</p> <p>1) 講演Ⅰ 環境・省エネルギー 10:30～11:30  <span style="padding-left: 40px;">未来工業㈱取締役相談役 山田昭男氏</span>  <span style="padding-left: 40px;">「徹底したケチが利益を生む」</span></p> <p>2) 講演Ⅱ ものづくり 13:30～14:30  <span style="padding-left: 40px;">㈱ベルニクス代表取締役 鈴木正太郎氏</span>  <span style="padding-left: 40px;">「世界を目指すIT電源機器メーカーベルニクスの戦略」</span></p> <p>3) 講演Ⅲ 新経営 15:10～16:10  <span style="padding-left: 40px;">N-HITEC㈱代表理事 朴浩鎮氏</span>  <span style="padding-left: 40px;">「中小企業の創造的挑戦」</span></p> <p>2. 成果等</p> <p>昨年引き続き予想を上回る初日は180名以上、2日目は150名以上の参加者を得て、盛況の内に終えることができた。</p> <p>特別講演片倉氏の韓国政府が謳う「クリーン成長」に適った分かりやすいご説明に聴衆は熱心に聞き入っていた。翌日の三講演についても時宜にかなった内容の講演であり活発な質問が出て好評のうちに終わることが出来た。</p> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">委託：日刊工業新聞社</p>	

## 2. 環境・省エネルギー関連事業

事業名	(2) 環境・省エネルギー技術者専門セミナー	【共同事業】																						
事業内容	<p>韓国中堅・中小企業の技術者を日本に招聘し、福岡県を中心とした九州で環境・省エネルギーに関連する専門技術の習得をねらって実施した。(2009年度(第2回))</p> <p>(1) 対象：韓国製造業 中堅・中小企業 技術者 10名</p> <p>(2) 期間：7日</p> <p>(3) 内容：a) 日本企業の省エネ・低コスト&amp;環境経営への取り組みを知る。  b) その活動の基盤技法としてCP、5S、TPM、TPSを講義と工場見学による事例研究で学ぶ。  c) 省エネ活動の具体的手法についても講義と工場見学による事例研究で学ぶ。</p>																							
実施状況	<p>1. 実施状況</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">期 間</td> <td>2009年11月15日(日)～11月21日(土)(来日～帰国)</td> </tr> <tr> <td>場 所</td> <td>ホテルニュータガワ(福岡県北九州市小倉北区)</td> </tr> <tr> <td>参加者</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>日 程</td> <td>内 容</td> </tr> <tr> <td>11/15(日)</td> <td>来日 1) 開講式 2) 歓迎懇親会</td> </tr> <tr> <td>11/16(月)</td> <td>1) 講義①日本企業の省エネ・省コスト&amp;環境経営への取組 (K I T A/藤本氏) 2) 事例研究①TPM・5Sの徹底 (TOTO/犬塚氏)</td> </tr> <tr> <td>11/17(火)</td> <td>1) 講義②TPS (豊田エンジニアリング/菅沼氏)</td> </tr> <tr> <td>11/18(水)</td> <td>1) 講義③省エネ活動の実際 (日本省エネルギーセンター/野中氏) 2) 事例研究②中小企業の省エネ活動 (中島ターレット/中島氏)</td> </tr> <tr> <td>11/19(木)</td> <td>1) 事例研究③日本中小企業の省エネ活動の実際 (日産自動車/二上氏) 2) 事例研究④中小企業の省エネ活動 (日栄紙工社/宮崎氏)</td> </tr> <tr> <td>11/20(金)</td> <td>1) 事例研究⑤TPSの実際 (トヨタ紡織九州/野田氏) 2) 講義④日本の自動車リサイクル業界の現状 (西日本オートリサイクル/関氏) 3) 事例研究⑥自動車部材リユースの実際 (西日本オートリサイクル/関氏) 4) 修了式/送別懇親会</td> </tr> <tr> <td>11/21(土)</td> <td>帰国</td> </tr> </table> <p>2. 成果概要等</p> <p>本年度の新規事業である。一週間という短い日程のなかにコンパクトに必要なコンテンツを盛り込んだ。今回の参加者は産業工業団地の経営者が多かったが、韓国内で最近言われるグリーン成長に関連した企業活動の進め方をよく理解できたとの声が多く出された。また、このような企画をより多く進めて欲しいとの希望が出された。</p> <p style="text-align: right;">委託：(財)北九州国際技術協力協会</p>		期 間	2009年11月15日(日)～11月21日(土)(来日～帰国)	場 所	ホテルニュータガワ(福岡県北九州市小倉北区)	参加者	10名	日 程	内 容	11/15(日)	来日 1) 開講式 2) 歓迎懇親会	11/16(月)	1) 講義①日本企業の省エネ・省コスト&環境経営への取組 (K I T A/藤本氏) 2) 事例研究①TPM・5Sの徹底 (TOTO/犬塚氏)	11/17(火)	1) 講義②TPS (豊田エンジニアリング/菅沼氏)	11/18(水)	1) 講義③省エネ活動の実際 (日本省エネルギーセンター/野中氏) 2) 事例研究②中小企業の省エネ活動 (中島ターレット/中島氏)	11/19(木)	1) 事例研究③日本中小企業の省エネ活動の実際 (日産自動車/二上氏) 2) 事例研究④中小企業の省エネ活動 (日栄紙工社/宮崎氏)	11/20(金)	1) 事例研究⑤TPSの実際 (トヨタ紡織九州/野田氏) 2) 講義④日本の自動車リサイクル業界の現状 (西日本オートリサイクル/関氏) 3) 事例研究⑥自動車部材リユースの実際 (西日本オートリサイクル/関氏) 4) 修了式/送別懇親会	11/21(土)	帰国
期 間	2009年11月15日(日)～11月21日(土)(来日～帰国)																							
場 所	ホテルニュータガワ(福岡県北九州市小倉北区)																							
参加者	10名																							
日 程	内 容																							
11/15(日)	来日 1) 開講式 2) 歓迎懇親会																							
11/16(月)	1) 講義①日本企業の省エネ・省コスト&環境経営への取組 (K I T A/藤本氏) 2) 事例研究①TPM・5Sの徹底 (TOTO/犬塚氏)																							
11/17(火)	1) 講義②TPS (豊田エンジニアリング/菅沼氏)																							
11/18(水)	1) 講義③省エネ活動の実際 (日本省エネルギーセンター/野中氏) 2) 事例研究②中小企業の省エネ活動 (中島ターレット/中島氏)																							
11/19(木)	1) 事例研究③日本中小企業の省エネ活動の実際 (日産自動車/二上氏) 2) 事例研究④中小企業の省エネ活動 (日栄紙工社/宮崎氏)																							
11/20(金)	1) 事例研究⑤TPSの実際 (トヨタ紡織九州/野田氏) 2) 講義④日本の自動車リサイクル業界の現状 (西日本オートリサイクル/関氏) 3) 事例研究⑥自動車部材リユースの実際 (西日本オートリサイクル/関氏) 4) 修了式/送別懇親会																							
11/21(土)	帰国																							

### 3. 地域間交流事業

事業名	(1) 九州・韓国産業交流事業 (2) 北陸・韓国産業交流支援 (3) 石川・韓国産業交流事業 <p style="text-align: right;">【共同事業】</p>
事業内容	日韓両国の地域間交流を支援することにより、両国間の貿易・投資・産業協力を促進する。 (1) 「九州・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、1993年度より毎年度実施（隔年で日本・韓国国内で年1回開催）。 (2) 「北陸・韓国経済交流会議」は、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、2000年度より毎年度実施（隔年で日本・韓国国内で年1回開催）。 (3) 「石川・韓国産業交流事業」はIT企業を対象として、石川県及び(財)石川県産業創出支援機構と(財)大邱デジタル産業振興院を中心に、2003年度より毎年度実施（金沢市と大邱広域市で各1回、年2回開催）。
実施状況	(1) <u>九州・韓国産業交流事業</u> 1) 実施期間：10月7日(水)～10月10日(土) 2) 実施場所：韓国光州広域市 ラマダブラザ光州ホテル他 3) 主要行事：日本側22名、韓国側60名、計82名参加 ①「第16回九州・韓国経済交流会議」(10/8 九州経済産業局長、知識経済部通商協力政策官が議長。IT、環境分野の交流等、24事業について実施することに合意) ②「金型分科会」(10/8 九州と光州金型産業振興会参加企業が参加) ③産業施設他視察(10/8,9・韓国アルプス(株)、韓国光技術院、KIA モーター等) (2) <u>北陸・韓国産業交流事業</u> 1) 実施期間：9月10日(木)～9月12日(土) 2) 実施場所：韓国江原道原州市ホグバレービレッジセンター、春川バイオ産業振興院 3) 主要行事：日本側39名、韓国側45名、計84名参加 ①「第10回北陸・韓国経済交流会議官民合同会議」(9/11 中部経済産業局長、知識経済部通商協力政策官が議長。IT・機械分野、物流分野等の交流促進で合意) ②商談会(9/11 北陸企業2社、韓国企業2社、商談件数2件) ③日韓バイオクラスターフォーラム(9/11) ・NPO法人北陸ライフクラスター研究会、企業及び春川バイオ振興院等計13名参加 4) 「北陸経済圏における対韓国経済交流の現状と将来動向」について調査(調査機関に委託) (3) <u>石川・韓国産業交流事業</u> ① IT企業ビジネス交流 in 石川 1) 実施期間：5月20日(水)～5月23日(土) 2) 実施場所：金沢市 石川県産業展示館他 3) 主要行事：日本側は石川県、(財)石川県産業創出支援機構、IT企業等33名、韓国側は(財)大邱デジタル産業振興院、韓国企業等11名、計44名参加 ①商談会(5/22 石川県内企業19社、韓国企業7社、商談件数30件。プレゼン実施) ②産業施設他視察(5/20,21「e-messe 金沢2009」、北陸先端科学技術大学院大学、石川サイエンスパーク、IT企業3社) ② IT企業ビジネス交流 in 大邱 1) 実施期間：9月7日(月)～9月11日(金)(大邱国際エンバデッドカンファレンスに併設) 2) 実施場所：大邱広域市 インターブルゴホテル 3) 主要行事：日本側は石川県、(財)石川県産業創出支援機構、北陸先端科学技術大学院大学、IT企業等15名、韓国側は(財)大邱デジタル産業振興院、慶北大学、韓国企業等30名、計45名参加 ①商談会(9/10 石川県内企業5社、韓国企業14社、商談件数23件) ②産業施設他視察(9/8,9「2009大邱国際エンバデッドカンファレンス」、(財)大邱デジタル産業振興院、慶北大学エンバデッドテクノロジーセンター、韓国企業1社) ③大学間交流(9/8 北陸先端科学技術大学院大学教授と慶北大学エンバデッドテクノロジーセンター長とでエンバデッド分野での今後の両大学連携の可能性について討議) ③ 日韓交流企業ネットワーク形成セミナー開催(石川県企業12社、北九州企業3社参加) 1) 実施時期/場所：2010年1月29日(金)、石川県地場産業振興センター(金沢市) 2) 北九州国際ITビジネス推進会(KLIC)と討議及び「韓国の最新IT事情」についての講演

### 3. 地域間交流事業

事業名	(4) 九州・韓国南部クラスター交流事業 <span style="float: right;">【共同事業】</span>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州地域と韓国南部地域の超広域経済圏を形成する目的で、2008年度から3カ年計画でスタートしたビジネス連携を具体化し促進する事業である。</li> <li>・2008年度は日韓ビジネス連携の可能性のある産業分野の調査を行った。</li> <li>・2009年度は上記調査結果により、①、②のスタートアップ事業と③継続調査を実施した。             <ul style="list-style-type: none"> <li>①九韓環境ビジネス連携推進事業</li> <li>②九韓ITビジネス連携推進事業</li> <li>③ビジネス連携継続調査</li> </ul> </li> </ul>
実施状況	<p>①九韓環境ビジネス連携推進事業</p> <p>九州側の「九州地域環境・サウル産業交流プラザ(K-RIP)」と、韓国側の「韓国産業団地公団(KICOX)」、「蔚山エコ事業団」及び「蔚山環境産業発展協議会」を中心に企業交流</p> <p>1) 事前協議(5月19日～20日 蔚山広域市)</p> <p>①K-RIPと蔚山エコ事業団及び蔚山環境産業発展協議会とで今後の交流内容等を協議</p> <p>2) 環境ミッション団派遣(6月10日～12日 ソウル特別市 COEX)</p> <p>①「ENVEX2009」(国際環境技術展)への出展</p> <p>②商談会(日本企業6社、韓国企業20社、商談件数33件で成立1件、見込み6件)</p> <p>3) 蔚山環境ミッション団受入(10月21日～23日 北九州市)</p> <p>①K-RIP会員と蔚山環境産業発展協議会会員との協議(日本側6社、韓国側15社)</p> <p>②「エコテクノ2009」及び環境関連施設の視察</p> <p>②九韓ITビジネス連携推進事業</p> <p>九州側の「北九州国際ITビジネス推進会(KLIC)」及び「(財)北九州産業学術推進機構(FAIS)」と韓国側の「釜山-九州IT協議会(BIKI)」、「釜山情報産業振興院(BIPA)」及び「釜山情報技術協会」を中心に企業交流</p> <p>1) 事前協議(4月23日～24日、5月20日～21日 釜山広域市)</p> <p>①KLICとBIPA及びBIKIとで今後の交流内容等を協議</p> <p>2) 釜山ITミッション団受入(6月10日～13日 北九州市)</p> <p>①商談会(日本企業12社、韓国企業12社、商談件数51件で成立見込み3件)</p> <p>②「アジア産業交流フェア2009」(西日本総合展示場)にBIKIがブース出展</p> <p>3) 商談会inIT EXPO(9月2日～5日 釜山広域市 BEXCO)</p> <p>①商談会(日本企業12社、韓国企業6社、商談件数59件)</p> <p>②FAISとBIPA及びKLICとBIKIがIT企業連携についてMOUを締結</p> <p>③ビジネス連携継続調査</p> <p>2008年度調査の結果を踏まえて、「九州・韓国南部地域におけるバイオ産業並びに人材分野の交流と連携の現状、課題、交流の可能性」について調査</p> <p>1) 調査機関/期間:(財)九州経済調査協会/2009年8月8日～2010年3月12日</p> <p>2) 調査方法</p> <p>①両国の機関・大学・企業等を訪問し、ヒアリング及び意見交換(全42件)</p> <p>②文献調査および統計分析</p> <p>3) 調査結果</p> <p>①バイオ分野は、(株)久留米リサーチ・パークや九州地域バイオクラスター推進協議会と韓国側の(財)釜山バイオ企業協会、バイオ21センター及び全羅南道生物産業振興財団をカウンターパートとして企業間交流が可能(2010年度スタートアップ事業の予定)</p> <p>②九州では、海外人材の活用を戦略としている企業は多くないが、韓国の留学生、新卒者の採用希望があり、インターンシップ制度の活用が効果的</p>

## 4. 産業・技術交流事業

事業名	(1) 先進企業技術交流事業 (a) 日本語教育 <span style="float: right;">【共同事業】</span>																						
事業内容	日本企業での企業実習(事業(1)(b))を効果的にするために、韓国企業の中堅技術者の日本語コミュニケーション能力を向上させる目的で実施する事業である。((1)(b)企業実習とリンクして実施)																						
実施状況	<p>1. 期間及び人数</p> (1) 入 国 : 2009年7月20日 (2) 日本語教育: 7月21日～8月19日 (30日間) (3) 参加人員 : 14名 <p>2. 実施要領</p> (1) 実施場所 : 宿泊研修施設「リフレフォーラム」(東京都江東区大島) (2) 担当教師 : 青山国際教育学院日本語センターより、常時3名(内1名は韓国語の話せる者)の教師を派遣、延べ8名の異なる教師によるローテーション授業 (3) クラス編成: 能力別に3クラス(4～6名/クラス) (4) 教育時間 : 5日/週(月～土曜日)、午前・午後各3.5時間、計7時間/日で5週間、合計175時間 <p>3. 実施内容</p> (1) 教育成果を上げるために、全員に事前学習プリントを渡し、実施結果を提出させた。 (2) 7月21日に行った筆記試験とインタビューによる能力評価テストの結果で、初級前半組4名、初級後半組6名、中級組5名の3クラス編成とした。 (3) クラス毎にカリキュラムを設定し、視聴覚機器を使用した能力別教育を実施した。 (4) 日々の宿題と、習熟度の確認のために定期・最終テストを実施した。 (5) 実践会話と日本の生活環境に触れる目的で、課外体験学習を3回実施した。 ・7月30日: 個人毎に課題を与え、研修施設近傍の郵便局、薬局、スーパー、駅等で日本語で商品購入・交渉・調査等を実施。 ・8月14日: 「先端技術館@TEPIA」(東京)で、展示機器につき機能等を質問し文書化。 ・8月21日: 韓国人留学生および韓国語を勉強している日本人との交流会を実施。 (於アジア文化会館) <p>4. 成果他</p> (1) 全員が無事に所定の課程を修了したので、教育機関発行の「修了証書」を授与した。 (2) 教育開始時にかなりのレベル差があったため、クラス毎に教育成果の差が出た。 (読む・書く・聞く・話すの4項目についてのテスト結果をポイント評価(10ポイントが満点)し、4項目を総合評価した。) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">クラス</th> <th style="text-align: center;">開始時</th> <th style="text-align: center;">修了時</th> <th style="text-align: center;">伸び率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初級前半組</td> <td style="text-align: center;">1. 5</td> <td style="text-align: center;">5. 1</td> <td style="text-align: center;">3. 4倍</td> </tr> <tr> <td>初級後半組</td> <td style="text-align: center;">2. 7</td> <td style="text-align: center;">4. 7</td> <td style="text-align: center;">1. 7倍</td> </tr> <tr> <td>中級組</td> <td style="text-align: center;">6. 4</td> <td style="text-align: center;">7. 3</td> <td style="text-align: center;">1. 2倍</td> </tr> <tr> <td>3クラス平均</td> <td style="text-align: center;">3. 5</td> <td style="text-align: center;">5. 7</td> <td style="text-align: center;">1. 6倍</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 受入企業アンケート調査結果 80%が日本語コミュニケーション良好であった。</p>			クラス	開始時	修了時	伸び率	初級前半組	1. 5	5. 1	3. 4倍	初級後半組	2. 7	4. 7	1. 7倍	中級組	6. 4	7. 3	1. 2倍	3クラス平均	3. 5	5. 7	1. 6倍
クラス	開始時	修了時	伸び率																				
初級前半組	1. 5	5. 1	3. 4倍																				
初級後半組	2. 7	4. 7	1. 7倍																				
中級組	6. 4	7. 3	1. 2倍																				
3クラス平均	3. 5	5. 7	1. 6倍																				

## 4. 産業・技術交流事業

事業名	(1) 先進企業技術交流事業 (b) 企業実習 <span style="float: right;">【共同事業】</span>																																		
事業内容	韓国企業の中堅技術者を日本に招聘し、国内の日本企業において、技術・経営上の課題の解決を目的とした企業実習を実施した。((1)(a)日本語教育とリンクして実施)																																		
実施状況	<p>1. 期間及び人数</p> (1) 入 国： 2009年7月20日 (入国後1ヶ月間は別事業で日本語教育を実施) (2) 企業実習： 8月30日 (受入企業へ移動)～11月7日 (帰国) (70日間) (8月23日～30日の8日間、中間帰国を実施) (3) 参加人員： 14名参加 (募集枠は20名であったが、経済不況とインフルエンザの影響で減少) <p>2. 内容</p> (1) 派遣企業、受入企業及び中堅技術者の、それぞれにメリットが出るような実習テーマと推進方法を計画し、企業実習を行った。 (2) 10月13日～17日に、関東・関西地区の受入企業計5社を訪問し、実習状況・改善点などについて意見交換を行った。 (3) 11月6日、受入企業関係者の出席のもとで、実習状況・成果についての報告会を行った。 <p>3. 技術者派遣韓国企業 (14社) 及び受入日本企業 (14社)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">&lt;派遣企業&gt;</th> <th style="width: 25%;">&lt;受入企業&gt;</th> <th style="width: 25%;">&lt;派遣企業&gt;</th> <th style="width: 25%;">&lt;受入企業&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) (株)京徳産業</td> <td>大垣精工(株)</td> <td>(8) (株)又新化学</td> <td>三福工業(株)</td> </tr> <tr> <td>(2) 韓国 AZBIL(株)</td> <td>(株)山武</td> <td>(9) (株)宇進産電</td> <td>(株)東芝</td> </tr> <tr> <td>(3) 東西石油化学(株)</td> <td>旭化成ケミカルズ(株)</td> <td>(10) (株)大盛 ENG</td> <td>(株)片山製作所</td> </tr> <tr> <td>(4) A&amp;D 電子天秤(株)</td> <td>(株)エー・アンド・デー</td> <td>(11) 大韓 PARKERRIZING(株)</td> <td>日本パーカーライジング(株)</td> </tr> <tr> <td>(5) (株)大邱放送</td> <td>(株)東通</td> <td>(12) 東京エレクトロンコリア(株)</td> <td>東京エレクトロンAT(株)</td> </tr> <tr> <td>(6) 二十一世紀機業(株)</td> <td>(株)廣野鉄工所</td> <td>(13) (株)東和 PNEUTECH</td> <td>(株)田邊空気機械製作所</td> </tr> <tr> <td>(7) 韓国 TOKIMEC 油空王(株)</td> <td>東京計器パワーシステム(株)</td> <td>(14) 又永産業(株)</td> <td>片山工業(株)</td> </tr> </tbody> </table> <p>4. 成果他</p> (1) 日本語教育期間を含め、全員が無事に所定の課程を修了し帰国した。 (2) 実習成果を業務に活用し、工程時間の短縮、工程数の削減、機械の効率的な運用、作業速度の向上、廃油処理コストの削減、不良品検出率の向上、などを達成。また、日本企業と日本語でのコミュニケーションが出来るようになった。 (2010.1.15 韓国で開催の評価懇談会での実習生発言) (3) 派遣企業や受入企業へのアンケート調査結果では、当事業の有効性や運営方法に肯定的な意見が多く、派遣企業として今後も派遣したい(100%)、受入企業として実習を受入れたい(89%)、年度毎に受入判断(11%)、との結果であった。			<派遣企業>	<受入企業>	<派遣企業>	<受入企業>	(1) (株)京徳産業	大垣精工(株)	(8) (株)又新化学	三福工業(株)	(2) 韓国 AZBIL(株)	(株)山武	(9) (株)宇進産電	(株)東芝	(3) 東西石油化学(株)	旭化成ケミカルズ(株)	(10) (株)大盛 ENG	(株)片山製作所	(4) A&D 電子天秤(株)	(株)エー・アンド・デー	(11) 大韓 PARKERRIZING(株)	日本パーカーライジング(株)	(5) (株)大邱放送	(株)東通	(12) 東京エレクトロンコリア(株)	東京エレクトロンAT(株)	(6) 二十一世紀機業(株)	(株)廣野鉄工所	(13) (株)東和 PNEUTECH	(株)田邊空気機械製作所	(7) 韓国 TOKIMEC 油空王(株)	東京計器パワーシステム(株)	(14) 又永産業(株)	片山工業(株)
<派遣企業>	<受入企業>	<派遣企業>	<受入企業>																																
(1) (株)京徳産業	大垣精工(株)	(8) (株)又新化学	三福工業(株)																																
(2) 韓国 AZBIL(株)	(株)山武	(9) (株)宇進産電	(株)東芝																																
(3) 東西石油化学(株)	旭化成ケミカルズ(株)	(10) (株)大盛 ENG	(株)片山製作所																																
(4) A&D 電子天秤(株)	(株)エー・アンド・デー	(11) 大韓 PARKERRIZING(株)	日本パーカーライジング(株)																																
(5) (株)大邱放送	(株)東通	(12) 東京エレクトロンコリア(株)	東京エレクトロンAT(株)																																
(6) 二十一世紀機業(株)	(株)廣野鉄工所	(13) (株)東和 PNEUTECH	(株)田邊空気機械製作所																																
(7) 韓国 TOKIMEC 油空王(株)	東京計器パワーシステム(株)	(14) 又永産業(株)	片山工業(株)																																

## 4. 産業・技術交流事業

事業名	(2) 技術普及事業	【共同事業】																														
事業内容	<p>韓国の産業団地・地域全体の企業の育成を図る為に、生産性向上コンサルティングを過去実施して来た。今年度も全国より希望する企業を募集し、日本からの各技術分野の専門家4名を派遣して4社の企業の技術指導を実施した。本事業では各企業で指導した成果内容を一般企業に普及させることを目的に、韓日財団のホームページ上で成果事例を紹介する。</p>																															
実施状況	<p>1. 技術指導 実施概要</p> <p>希望する企業の中から4社を選定し、4技術分野で延べ約3ヶ月間実施した。</p> <p>実施期間：2009年6月～8月（1社当たり4日で実施）</p> <p>(1) 1社に対し各4日の現場指導を実施。</p> <p>(2) 専門家が夫々その専門性に応じて、生産性向上全般、技術改善を指導。</p> <p>重点指導内容：①生産性・品質向上の方法、②問題解決の手法、③機械設備の改善方法等</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin: 10px 0;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 35%;">分野／専門家</th> <th style="width: 10%;">実施日</th> <th style="width: 20%;">実施企業</th> <th style="width: 10%;">都市</th> <th style="width: 20%;">生産品目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1</td> <td>機械・金属加工／柴田 力</td> <td style="text-align: center;">6/15～18</td> <td>和成MOLD-TECH(株)</td> <td style="text-align: center;">仁川</td> <td>自動車部品 射出成型</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>プレス金型 /辻 秀志</td> <td style="text-align: center;">7/6～9</td> <td>KMT CO.</td> <td style="text-align: center;">華城</td> <td>自動車用プレス 金型</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>溶接・熱処理 /西 武史</td> <td style="text-align: center;">7/20～23</td> <td>NARA CORP</td> <td style="text-align: center;">釜山</td> <td>カップリング・船舶 用エンジン部品</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4</td> <td>機械・金属加工／三好紀臣</td> <td style="text-align: center;">8/17～20</td> <td>二十一世紀機業(株)</td> <td style="text-align: center;">江陵</td> <td>各種ギャ及び ギャボックス</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 成果 等</p> <p>各企業は短期間の指導で問題・課題の解決手法を習得した。技術的な問題点の解決に対して効果があったと好評であった。</p> <p>短期間内であったが、専門家が積極的に連日現場に入り、従業員と共に問題解決にあたった。</p> <p>未だ解決に至っていない課題があり、今後各企業が引続き解決に注力することを期待する。企業で指導した成果事例を一般企業に普及させることを目的に、韓日財団のホームページ上で紹介する。</p>			分野／専門家	実施日	実施企業	都市	生産品目	1	機械・金属加工／柴田 力	6/15～18	和成MOLD-TECH(株)	仁川	自動車部品 射出成型	2	プレス金型 /辻 秀志	7/6～9	KMT CO.	華城	自動車用プレス 金型	3	溶接・熱処理 /西 武史	7/20～23	NARA CORP	釜山	カップリング・船舶 用エンジン部品	4	機械・金属加工／三好紀臣	8/17～20	二十一世紀機業(株)	江陵	各種ギャ及び ギャボックス
	分野／専門家	実施日	実施企業	都市	生産品目																											
1	機械・金属加工／柴田 力	6/15～18	和成MOLD-TECH(株)	仁川	自動車部品 射出成型																											
2	プレス金型 /辻 秀志	7/6～9	KMT CO.	華城	自動車用プレス 金型																											
3	溶接・熱処理 /西 武史	7/20～23	NARA CORP	釜山	カップリング・船舶 用エンジン部品																											
4	機械・金属加工／三好紀臣	8/17～20	二十一世紀機業(株)	江陵	各種ギャ及び ギャボックス																											

## 4. 産業・技術交流事業

事業名	(3) 日韓中小企業経営者交流事業 ①日韓中小企業経営者交流事業（訪韓ミッション）									
事業内容	日韓首脳会談で韓国から協力要請を受けた部品素材専用工業団地へ投資を図るために、日本経営者、投資担当者等 30 名を募集し 27 名、23 社が参加した。韓国南部 3 か所(釜山/鎮海自由経済特区、亀尾市、浦項市)を 2 泊 3 日の日程でまわり投資環境説明会、現地説明会、現地視察、工場見学、地元企業/日本からの進出企業との交流会を行った。									
実施状況	1. 実施状況 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%; text-align: center;">日 程</th> <th style="text-align: center;">内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">10/21(水)</td> <td>                     11:10 成田空港発                      13:20 釜山/金海空港着                      移動 釜山市コモドホテル                      15:30 投資環境説明会 ①知識經濟部李事務官「大韓民国の外国人投資環境および投資機会」                      ②WITHUS 法律事務所金社長「韓国労使関係分析及び展望」                      ③KOTRA 徐専門員「韓国の知的財産制度」                      ④ソウル・ジャパン・クラブ栗谷理事長「進出日本企業から見た韓国投資環境」                      19:00 企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">10/22(木)</td> <td>                     8:00 ホテル発                      9:00 釜山・鎮海 FEZ 部品素材専用工団現地説明会                      釜山新港視察、美音地区視察、南門地区視察                      移動 亀尾市第 4 工業団地展望台へ                      14:30 部品素材専用工団現地説明、視察、東レセハン工場見学                      移動 亀尾市ホテル・クモサンへ                      18:00 亀尾専用工団投資環境説明会                      企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center; vertical-align: middle;">10/23(金)</td> <td>                     6:30 ホテル発                      移動 浦項市役所へ                      8:30 部品素材専用工団投資環境説明会                      移動 部品素材専用工団へ                      現地説明、現地視察                      10:30 移動 釜山/金海空港へ                      14:15 釜山/金海空港発                      16:15 羽田空港着                 </td> </tr> </tbody> </table>		日 程	内 容	10/21(水)	11:10 成田空港発 13:20 釜山/金海空港着 移動 釜山市コモドホテル 15:30 投資環境説明会 ①知識經濟部李事務官「大韓民国の外国人投資環境および投資機会」 ②WITHUS 法律事務所金社長「韓国労使関係分析及び展望」 ③KOTRA 徐専門員「韓国の知的財産制度」 ④ソウル・ジャパン・クラブ栗谷理事長「進出日本企業から見た韓国投資環境」 19:00 企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流	10/22(木)	8:00 ホテル発 9:00 釜山・鎮海 FEZ 部品素材専用工団現地説明会 釜山新港視察、美音地区視察、南門地区視察 移動 亀尾市第 4 工業団地展望台へ 14:30 部品素材専用工団現地説明、視察、東レセハン工場見学 移動 亀尾市ホテル・クモサンへ 18:00 亀尾専用工団投資環境説明会 企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流	10/23(金)	6:30 ホテル発 移動 浦項市役所へ 8:30 部品素材専用工団投資環境説明会 移動 部品素材専用工団へ 現地説明、現地視察 10:30 移動 釜山/金海空港へ 14:15 釜山/金海空港発 16:15 羽田空港着
日 程	内 容									
10/21(水)	11:10 成田空港発 13:20 釜山/金海空港着 移動 釜山市コモドホテル 15:30 投資環境説明会 ①知識經濟部李事務官「大韓民国の外国人投資環境および投資機会」 ②WITHUS 法律事務所金社長「韓国労使関係分析及び展望」 ③KOTRA 徐専門員「韓国の知的財産制度」 ④ソウル・ジャパン・クラブ栗谷理事長「進出日本企業から見た韓国投資環境」 19:00 企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流									
10/22(木)	8:00 ホテル発 9:00 釜山・鎮海 FEZ 部品素材専用工団現地説明会 釜山新港視察、美音地区視察、南門地区視察 移動 亀尾市第 4 工業団地展望台へ 14:30 部品素材専用工団現地説明、視察、東レセハン工場見学 移動 亀尾市ホテル・クモサンへ 18:00 亀尾専用工団投資環境説明会 企業交流会 工団関係者・地元企業・進出日本企業との交流									
10/23(金)	6:30 ホテル発 移動 浦項市役所へ 8:30 部品素材専用工団投資環境説明会 移動 部品素材専用工団へ 現地説明、現地視察 10:30 移動 釜山/金海空港へ 14:15 釜山/金海空港発 16:15 羽田空港着									
	2. 成果等： 参加者の多くは、すぐに韓国進出を図ることは難しく、今後の投資先として、あるいは韓国の経済状況を目で見て実感することを目的としたが、それぞれ狙い通りの成果を得たとの結果を得られた。なかには、この訪韓後すぐ浦項市へ再訪し製鉄関連会社と接触を図り商談を進めている企業もある。 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">                     後援：在大韓民国日本国大使館      委託：日刊工業新聞社                      協力：大韓貿易投資振興公社（KOTRA）・韓日産業・技術協力財団                 </div>									



## 4. 産業・技術交流事業

事業名	(3) 日韓中小企業経営者交流事業 ②日韓中小企業産業技術フォーラム
事業内容	日韓の中堅・中小企業間で一層のビジネス交流拡大と産業技術交流進展を図るため、東京都大田区で「第1回日韓中小企業産業技術フォーラム」として実施した。翌日商談会に参加するために来日した企業経営幹部23名を対象に、工場見学・経営セミナー・企業交流会を通して日本の中小企業の経営姿勢を学ぶ機会を提供した。
実施状況	<p>1. 概要（2009年7月1日（水）実施）</p> <p><b>【工場見学】</b> 13:00～14:30 ㈱奈良機械製作所(大田区城南島) 会社概要説明、工場見学、質疑・意見交換</p> <p><b>【経営セミナー・意見交換会・企業交流会】</b> 大田区消費者生活センター大会議室（大田区蒲田）</p> <p>15:00～16:00 経営セミナー：講師 MHSコネクトレンズ㈱ 浅野代表取締役 題目「グローバル時代のモノづくり経営について」</p> <p>16:00～17:00 意見交換会：テーマ「社員教育・技術伝承・現経済環境下での課題」等 パネリスト ㈱奈良機械製作所 奈良社長 MHSコネクトレンズ㈱ 浅野社長 進行 日韓産業技術協力財団 古川専務理事</p> <p>17:30～19:30 企業交流会</p> <p>2. 成果等</p> <p>羽田空港から直ちに工場見学先へ移動しタイトなスケジュールでのプログラムであった。見学先の奈良社長の当意即妙なサービス精神溢れるご説明に参加者は引き込まれ、沢山の質疑を引き出された。また、グローバル企業でのモノづくりについて浅野社長から講演いただいた後の意見交換会は、いろいろな課題について両社長から意見を開陳され、参加者からの質問も多く出されて活発な意見交換会となった。企業交流会では熱心な会話が各テーブルで弾み、参加者から好評であった。</p> <p style="text-align: right;">委託：日刊工業新聞社</p>

## 4. 産業・技術交流事業

事業名	(4) 理工系大学院生研究支援事業	【共同事業】		
事業内容	<p>日本の理工系大学院生（博士／修士課程在籍者）を夏休みに7週間韓国へ派遣し、大学・公的研究機関で研究研修する事業（Summer Institute：SI）と韓国の理工系大学院生（同上）を冬休みに7週間日本へ招聘し、公的研究機関で研究研修する事業（Winter Institute：WI）からなる。</p> <p style="text-align: center;">(1) 人数：SI 5名、WI 35名                      (2) 期間：47日</p>			
実施状況	<p>1. 概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【SI】2009年8月4日～2009年9月20日(47日間)東北大学他5名(男子)</li> <li>・【WI】2010年1月5日～2010年2月20日(47日間)ソウル大学他19大学から35名 (男子19、女子16)</li> </ul> <p>2. 受入研究機関：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【SI】浦項工科大学校、済州大学校、光州科学技術院、東亜大学校、東義大学校 (計)5機関 5名</li> <li>・【WI】 <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立環境研究所                      3名</li> <li>・物質・材料研究機構                4名</li> <li>・産業技術総合研究所                11名</li> <li>・国土技術政策総合研究所            1名</li> <li>・国立科学博物館                      1名</li> <li>・農業生物資源研究所                1名</li> </ul> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top; border-left: 1px dotted black;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業環境技術研究所                1名</li> <li>・理化学研究所                        10名</li> <li>・NHK 放送技術研究所                1名</li> <li>・情報通信研究機構                  1名</li> <li>・NCNP国立精神・神経センター    1名</li> </ul> <p style="text-align: right;">(計)11機関                      35名</p> </td> </tr> </table> </li> </ul> <p>3. 特記：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年度からWIの募集広報にポスター・チラシを大学に配布したことにより、83名という従来にない応募者があり、40名を決めたが就職との関係で辞退者が出て最終的に35名の参加者となった。就職予定者の参加希望に対しての対応が必要となった。</li> <li>・SIは募集広報を間口を広げた結果、7名の応募となり、予定通り5名を決定した。</li> <li>・本年度から韓国の協力機関である韓国科学財団が組織再編により3機関が統合された韓国研究財団(NRF)に変更された。</li> </ul> <p>4. 成果等：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・WIは今年度で17回を数え618名が参加しているが、韓国での広報活動を拡充したことにより認知度が上っており、このプログラムの有効性について韓国内での理解が深まってきたことが実感される。SIプログラムを追加したことも好感を持って受け取られており、この短期プログラムの狙いである研究交流のきっかけづくりと維持強化が着実に進んでいることが窺われる。</li> <li>・今年度のWI参加者の1名は4月からつくば大学院博士課程に進学しており、昨年度の参加者も3名が再度来日し留学中である。ホスト研究所の回訪から、今年も参加研究生は非常に優秀である・まじめである等の好評価を頂いており、優秀な研究生を将来の研究交流のパートナーとするだけでなく、日本に招聘して優秀な研究員とすることを希望していることを感じられる。日本の研究機関のグローバル化に沿った、日韓の科学技術研究交流のWIN-WIN関係の進化が進んでいると言える。</li> </ul> <p style="text-align: center;">委託：(財)日韓文化交流基金／実施：(社)科学技術国際交流センター (JISTEC) 協力：韓国研究財団 (NRF)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立環境研究所                      3名</li> <li>・物質・材料研究機構                4名</li> <li>・産業技術総合研究所                11名</li> <li>・国土技術政策総合研究所            1名</li> <li>・国立科学博物館                      1名</li> <li>・農業生物資源研究所                1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業環境技術研究所                1名</li> <li>・理化学研究所                        10名</li> <li>・NHK 放送技術研究所                1名</li> <li>・情報通信研究機構                  1名</li> <li>・NCNP国立精神・神経センター    1名</li> </ul> <p style="text-align: right;">(計)11機関                      35名</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立環境研究所                      3名</li> <li>・物質・材料研究機構                4名</li> <li>・産業技術総合研究所                11名</li> <li>・国土技術政策総合研究所            1名</li> <li>・国立科学博物館                      1名</li> <li>・農業生物資源研究所                1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業環境技術研究所                1名</li> <li>・理化学研究所                        10名</li> <li>・NHK 放送技術研究所                1名</li> <li>・情報通信研究機構                  1名</li> <li>・NCNP国立精神・神経センター    1名</li> </ul> <p style="text-align: right;">(計)11機関                      35名</p>			

## 5. 調査・広報事業

事業名	(1) 日韓経済連携関連事業
事業内容	<p>2007 年度から日韓両国の経済連携の方向性や方法を探るために、産・学・官の有識者によるシンポジウムを毎年 1 回開催しており、2009 年度は 3 回目である。((社)日韓経済協会と共催) 過去 2 回のシンポジウムの共通テーマは以下の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 回 2007.10.9 「日韓の更なる緊密化に向けて」</li> <li>・ 第 2 回 2008.10.22 「未来志向の日韓経済交流に向けて」</li> </ul>
実施状況	<p>1. 「第 3 回日韓経済シンポジウム」開催</p> <p>(1) 開催日：2009 年 10 月 19 日 (月) 13:30～17:20</p> <p>(2) 場 所：経団連会館 (東京都千代田区大手町 1-3-2) 2 階ホール</p> <p>(3) 後 援：(社)日本経済団体連合会、(財)経済広報センター</p> <p>(4) 参加者：約 200 名</p> <p>(5) テーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 共通テーマ：「日韓産業・地域間経済交流の更なる活性化に向けて」</li> <li>・ 総合司会：深川 由起子 早稲田大学政治経済学部教授</li> </ul> <p>①セッションⅠ：「産業間交流の活性化」(韓国対日企業進出の課題、対韓投資と日韓連携及び韓国対日貿易拡大方策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本側：林 廣茂 同志社大学大学院ビジネス研究科教授</li> <li>・ 韓国側：李 亨五 (イ・ヒョンオ) 韓国淑明女子大学校経営学部教授</li> </ul> <p>②セッションⅡ：「地域間経済交流の活性化」(日韓主要地域間交流の現状と課題及び九州・韓国南部間クラスターの日韓交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本側：深川 由起子 早稲田大学政治経済学部教授</li> <li>・ 日本側：飯塚 誠 九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)クラスターマネージャー、九州工業大学特任准教授</li> <li>・ 韓国側：梁 聖奉 (ヤン・ソボン) 蔚山地域環境技術開発センター長、韓国蔚山大学校化学科教授</li> </ul> <p>③パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 深川教授のリードで、各セッション講演者から補足説明や会場との質疑応答を実施。</li> </ul> <p>2. 会場でのアンケート調査結果 (回答者数 89 名)</p> <p>①各セッションに対する評価 (「参考になった」、「普通」、「参考にならなかった」の 3 段階)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ セッションⅠは 76%、セッションⅡは 55%、パネルディスカッションについては 44% が参考になったとの評価であった。(参考にならなかったとの回答者は 0～8%、未記入者は 7～17%)</li> </ul> <p>②次回シンポジウムのテーマについて (順不同)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日中韓共同プロジェクトの成功例</li> <li>・ 韓・米、韓・EU の FTA の影響と効果</li> <li>・ 企業連携、M&amp;A 成功のカギ</li> <li>・ 日韓間の非関税障壁 (特にサービス業)</li> <li>・ 地域間の経済交流</li> <li>・ 韓国企業から見た日本市場</li> <li>・ 韓国環境産業の育成と日本企業の役割</li> <li>・ 中小企業人の交流成功事例</li> <li>・ 日韓農水産品競争力比較 他多数</li> </ul>

## 5. 調査・広報事業

事業名	(2) 各種調査・研究事業																																						
事業内容	<p>本事業は、調査・広報事業の一部として、既に韓国で生産・営業活動を営んでいる日系進出企業の現地経営の高度化を支援すべく実施するものである。1999年以降、韓国経営研究会として2種の研究会を計70回開催した。(ソウルジャパンプラブ(SJC)経営研究会支援)</p>																																						
実施状況	<p>在韓日系企業における経営技術向上のための、経営ノウハウの交流促進、韓国産業・経済等に関する学習の場を提供する。2009年度、韓国経営研究会は次の2種類を実施した。</p> <p>1) 企業経営研究会</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">テーマ</th> <th style="width: 30%;">場所</th> <th style="width: 20%;">日程</th> <th style="width: 20%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回(通算27回) 「釜山地域の投資環境と景気状況」</td> <td>訪問先： ・釜山港湾施設など釜山・鎮海経済自由区域、他</td> <td>7月9日(木) ～10日(金)</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>第2回(通算28回) 「激変する事業環境への経営対応」</td> <td>訪問先： ・オムロン電装 ・東友ファインケム</td> <td>11月3日(火)</td> <td>25名</td> </tr> <tr> <td>第3回(通算29回) 「韓国のクリーンエネルギー政策と慶北地域の投資環境」</td> <td>訪問先： ・三星エバーランド発電所 ・日本電気硝子(亀尾) ・亀尾産業団地、他</td> <td>11月5日(木) ～6日(金)</td> <td>13名</td> </tr> </tbody> </table> <p>2) 経営研究セミナー</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">テーマ</th> <th style="width: 30%;">講師</th> <th style="width: 20%;">日時・場所</th> <th style="width: 20%;">参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回(通算43回) 「韓国経済の現況と今後の対応」</td> <td>早稲田大学 政治経済学部 深川由起子 教授</td> <td>3月17日(火) 16:00～18:00 韓国経済新聞社ホール</td> <td>97名</td> </tr> <tr> <td>第2回(通算44回) 「経済危機下の韓国市場での日本企業の対応」</td> <td>ソウル大学校 国際大学院 金顕哲 教授</td> <td>6月4日(木) 16:00～17:30 Seoul Plaza Hotel</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td>第3回(通算45回) 「日韓製造業の競争力変化—LCD、半導体、自動車を例として—」</td> <td>三星経済研究所 李佑光 首席研究員</td> <td>9月10日(木) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール</td> <td>89名</td> </tr> <tr> <td>第4回(通算46回) 「2010年韓国経済の展望—主要産業を中心に—」</td> <td>三井住友銀行 ソウル支店 金映奐 次長</td> <td>12月14日(月) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール</td> <td>81名</td> </tr> </tbody> </table> <p>本研究会の意義を確認するとともに、実施内容・実施方法等改善への示唆を得ることができた。</p> <p style="text-align: right;">委託：ソウルジャパンプラブ (SJC)</p>			テーマ	場所	日程	参加人数	第1回(通算27回) 「釜山地域の投資環境と景気状況」	訪問先： ・釜山港湾施設など釜山・鎮海経済自由区域、他	7月9日(木) ～10日(金)	18名	第2回(通算28回) 「激変する事業環境への経営対応」	訪問先： ・オムロン電装 ・東友ファインケム	11月3日(火)	25名	第3回(通算29回) 「韓国のクリーンエネルギー政策と慶北地域の投資環境」	訪問先： ・三星エバーランド発電所 ・日本電気硝子(亀尾) ・亀尾産業団地、他	11月5日(木) ～6日(金)	13名	テーマ	講師	日時・場所	参加人数	第1回(通算43回) 「韓国経済の現況と今後の対応」	早稲田大学 政治経済学部 深川由起子 教授	3月17日(火) 16:00～18:00 韓国経済新聞社ホール	97名	第2回(通算44回) 「経済危機下の韓国市場での日本企業の対応」	ソウル大学校 国際大学院 金顕哲 教授	6月4日(木) 16:00～17:30 Seoul Plaza Hotel	60名	第3回(通算45回) 「日韓製造業の競争力変化—LCD、半導体、自動車を例として—」	三星経済研究所 李佑光 首席研究員	9月10日(木) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	89名	第4回(通算46回) 「2010年韓国経済の展望—主要産業を中心に—」	三井住友銀行 ソウル支店 金映奐 次長	12月14日(月) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	81名
テーマ	場所	日程	参加人数																																				
第1回(通算27回) 「釜山地域の投資環境と景気状況」	訪問先： ・釜山港湾施設など釜山・鎮海経済自由区域、他	7月9日(木) ～10日(金)	18名																																				
第2回(通算28回) 「激変する事業環境への経営対応」	訪問先： ・オムロン電装 ・東友ファインケム	11月3日(火)	25名																																				
第3回(通算29回) 「韓国のクリーンエネルギー政策と慶北地域の投資環境」	訪問先： ・三星エバーランド発電所 ・日本電気硝子(亀尾) ・亀尾産業団地、他	11月5日(木) ～6日(金)	13名																																				
テーマ	講師	日時・場所	参加人数																																				
第1回(通算43回) 「韓国経済の現況と今後の対応」	早稲田大学 政治経済学部 深川由起子 教授	3月17日(火) 16:00～18:00 韓国経済新聞社ホール	97名																																				
第2回(通算44回) 「経済危機下の韓国市場での日本企業の対応」	ソウル大学校 国際大学院 金顕哲 教授	6月4日(木) 16:00～17:30 Seoul Plaza Hotel	60名																																				
第3回(通算45回) 「日韓製造業の競争力変化—LCD、半導体、自動車を例として—」	三星経済研究所 李佑光 首席研究員	9月10日(木) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	89名																																				
第4回(通算46回) 「2010年韓国経済の展望—主要産業を中心に—」	三井住友銀行 ソウル支店 金映奐 次長	12月14日(月) 16:00～17:30 韓国経済新聞社ホール	81名																																				

## 5. 調査・広報事業

事業名	(3) 財団ホームページ整備
事業内容	財団パンフレットの更新、既存のホームページの充実及び更新等を通じて、財団事業に関する情報を積極的にPRしていく。
実施状況	<p>日韓財団の「ホームページ (HP)」のより一層の充実を図り、随時新しい活動内容を情報開示すると共に、基幹データを整理した。</p> <p>財団の実績及び成果事例、各種事業報告書、決算書等もアップデートし、掲載した。</p> <p>また、各事業の終了時には、写真を取り込み結果報告などタイムリーに掲載する等、財団事業活動のPRに貢献した。</p> <p>入札に関しては財団事業の業務委託の案内 (説明会含む)、及び選定結果を掲載し、周知した。</p>

## V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催

1992年6月に日韓両国政府間で合意された「日韓貿易不均衡是正等のための具体的実践計画」の中で両国の「産業技術協力財団」が協力して業務を実施していくよう連絡協議会を設置することが定められており、その下部機関として幹事会を設け、必要により随時協議することとなっている。

### 1. 第16回連絡協議会は下記のとおり開催された。

日 時：2009年4月17日（金）

場 所：ロッテホテルソウル

出席者：

（日本側）

委員長	飯島 英胤	理 事 長
委 員	鮫島 章男	副理事長
”	上田 勝弘	副理事長
”	水野 雄氏	日韓経済協会 理事
”	栗谷 勉	SJC 理事長
”	古川 洋三	専務理事

（韓国側）

委員長	趙 錫 來	理 事 長
委 員	禹 石 亨	監 事
”	李 吉 鉉	専門委員長
”	金 世 鎬	理事代理
”	許 南 整	専務理事

朝食・意見交換

（1）両財団の2009年度事業計画と連携強化について

（2）理工系大学院生研究支援事業、中小企業ビジネス促進事業、日韓産業技術フォーラム、日本企業訪韓ミッションの内容と要望事項

（なお、第17回の連絡協議会は2010年4月16日（金）岡山にて開催された。）

### 2. 第17回連絡協議会幹事会は下記の通り開催された。

日 時：2009年7月28日（火）10:00～17:00

場 所：日韓財団会議室

出席者：

（日本側）

主 査	古川 洋三	日韓産業技術協力財団	専務理事・事務局長
委 員	山崎 弘	”	常務理事・管理部長
”	北林 均	”	事業第一部長
”	三池 壽博	”	事業第二部長
委 員	讚井 善郎	日韓財団 日韓中小企業情報交流センター	所長
”	杉山 茂夫	日韓産業技術協力財団	総務部長

Observer	赤堀 毅	外務省 アジア大洋州局	日韓経済室長
〃	玉城 勝也	〃	日韓経済室 外交実務研究員
〃	伊集院健夫	経済産業省 通商政策局	通商交渉調整官
〃	渡邊 亨	〃	北東アジア課 係長
〃	山鹿 允寛	〃	北東アジア課

(韓国側)

主 査	智 光 薫	韓日産業・技術協力財団	専務理事
委 員	金 汝 種	韓日財団 Outsourcing Center	Center 長／理事
〃	宋 成 基	〃 日本企業研究 Center	Center 長／理事
〃	金 彰 彬	〃 企画管理 Team	Team 長／部長
〃	張 震 旭	〃 産業技術 Team	Team 長／部長
〃	金 璋	〃 日本事務所	所長
Observer	崔 暎 培	外交通商部 東 Asia 通商課	一等書記官
〃	裴 晟 竣	知識經濟部 亜洲協力課	事務官
〃	孫 昊 榮	駐日大韓民国大使館	書記官

議 題：

※2009年度共同事業推進状況説明

※2010年度共同事業を含む事業計画方針説明

※上記事業計画説明及び協議

3. 第17回連絡協議会幹事会実務者会議は下記の通り開催された。

日 時：2009年11月12日（木）全体会議・事業単位分科（1）

13日（金）事業単位分科会（2）・全体会議

場 所：韓日財団会議室

出席者：

(日本側)

主 査	古川 洋三	日韓産業技術協力財団	専務理事・事務局長
委 員	山崎 弘	〃	常務理事・管理部長
〃	北林 均	〃	事業第一部長
〃	三池 壽博	〃	事業第二部長
〃	讃井 善郎	日韓財団 日韓中小企業情報交流センター	所長
〃	杉山 茂夫	日韓産業技術協力財団	総務部長

(韓国側)

代表委員	智光薫	韓日産業・技術協力財団	専務理事
委員	宋成基	韓日財団 日本知識情報 Center	Center 長
	金汝種	日本 Business 協力 Center	Center 長
	金彰彬	経営支援室	室長
	張震旭	〃	部長
	李光濟	日本 Business 協力 Center	部長
	李炳國	経営支援室	次長
	劉崇勳	日本 Business 協力 Center	次長
	李丞赫	〃	代理
	李由美	〃	代理

議 題：

全体会議（11月12日）

※2009年度共同事業推進状況説明

※2010年度共同事業を含む事業計画方針説明

※上記事業計画及び説明に伴う協議

事業単位分科会(1)(2)（11月12日）

※2010年度共同事業協議

※その他事項

全体会議（11月13日）

※事業単位別協議事項報告

※その他事項

以 上



## VI. 事務局人事

平成21年度は特になし

## VII. 財 団 主 要 活 動

月 日	事 項
平成21年	
4月16日(木)	「2009日韓部品素材調達・供給展示会」ブース出展。(於：ロッテホテルソウル、17日まで、讚井所長・杉原職員実施)
17日(金)	第16回日韓・韓日両財団連絡協議会開催。(於：ロッテホテルソウル)
20日(月)	・公認会計士の板垣氏による監査。(21日まで) ・「技術普及事業」事前調査実施(ソウル～釜山)。(23日まで、韓国企業7社、メンバー：三好専門家・辻専門家・山崎常務理事・韓財団 張震旭チーム長・李炳國課長)
22日(水)	「先進企業技術交流事業」応募技術者面接選考及び審議会実施。(於：韓日財団会議室、24日まで、三池部長実施)
5月12日(火)	部品素材モデル企業育成事業(韓日財団単独事業)日本技術専門家マッチング相談会(企業との面談)開催。(於：砂防会館・別館、山崎常務理事出席)
20日(水)	2009年度「ビジネス商談会 in 石川」(於：金沢市)開催。(23日まで、三池部長出席)
26日(火)	三池部長が北陸・韓国経済交流会議第21回実務者会議出席のため金沢に出張。
6月10日(水)	三池部長がソウルにて開催の九韓環境ビジネス連携事業のビジネスミッションに参加。(12日まで)
15日(月)	「技術普及事業」1社目(和成 MOLD-TECH/韓国・仁川)企業指導実施。(18日まで柴田専門家実施、17日・18日 山崎常務理事実施)
24日(水)	平成21年度第1回評議員会、第1回理事会及び第2回評議員会開催。 (於：日韓財団会議室) 第1回評議員会 審議事項 ①平成21年度予算修正案承認の件 第1回理事会 議決事項 第1号議案 平成21年度予算修正案承認の件 第2号議案 平成20年度事業報告(案)承認の件 第3号議案 平成20年度収支決算報告(案)承認の件 第4号議案 評議員選出承認の件 第2回評議員会 報告事項 ①平成20年度事業報告 ②平成20年度収支決算報告
7月 1日(水)	「第1回日韓中小企業産業技術フォーラム」開催。工場見学(株奈良機械製作所/大田区城南島)、経営者セミナー及び日韓企業交流会(於：大田区消費生活センター)実施。(飯島理事長・古川専務理事・山崎常務理事・北林部長参加)
2日(木)	・「第1回日韓中小企業産業技術フォーラム・第12回日韓中小企業商談会」開

月 日	事 項
	<p>催。韓国企業20社、日本企業80社参加。(於：品川プリンスホテル、飯島理事長・古川専務理事・山崎常務理事・讃井所長・杉原職員参加)</p> <p>・三池部長が九州・韓国南部 IT ビジネス連携事業に係る展示・商談会に参加のため北九州市に出張。(3日まで)</p>
3日(金)	<p>・「日韓中小企業 CEO フォーラム」開催(日本商工会議所他主催)。(於：東京会館、飯島理事長・古川専務理事・山崎常務理事出席)</p> <p>・官民合同会議中小企業政策対話会・懇親会開催。(於、対話会：中央合同庁舎4号館、懇親会：上野伊豆栄、古川専務理事出席)</p>
6日(月)	<p>「技術普及事業」2社目(KMT CO./韓国・華城)企業指導実施。(9日まで辻専門家実施、8日・9日 山崎常務理事実施)</p>
20日(月)	<p>・「先進企業技術交流事業」実習生14名韓国より来日。</p> <p>・「技術普及事業」3社目(NARA CO./韓国・釜山)企業指導実施。(23日まで西専門家実施、22日・23日 山崎常務理事実施)</p>
21日(火)	<p>「先進企業技術交流事業」オリエンテーション等実施。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、三池部長実施)</p> <p>開講式及び歓迎会開催。(於：喜山倶楽部(日本教育会館内)、駐日本国大韓民国大使館・外務省・日本語学校・韓日財団・古川専務理事・山崎常務理事・三池部長・梶山職員出席)</p>
28日(火)	<p>第17回日韓・韓日両財団連絡協議会幹事会開催。(於：当財団会議室、日本側は外務省・経済産業省・日韓財団、韓国側は知識経済部・駐日本国大韓民国大使館・外交通商部・韓日財団出席)</p>
29日(水)	<p>連絡協議会幹事会分科会実施。(於：当財団会議室)</p>
8月 5日(水)	<p>「理工系大学院生研究支援事業 Summer Institute」開講式開催。(於：ヨンドンホテル(ソウル)、日本側大学院生5名・山崎常務理事・北林部長・韓日財団・JISTEC 出席)</p>
17日(月)	<p>「技術普及事業」4社目(二十一世紀機業株/韓国・江陵)機業指導実施。(20日まで三好専門家実施、19日・20日 山崎常務理事実施)</p>
19日(水)	<p>「先進企業技術交流事業 日本語教育」修了式開催。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、実習生14名・古川専務理事・三池部長・梶山職員・韓日財団・青山国際教育学院(日本語教育機関)出席)</p>
23日(日)	<p>「先進企業技術交流事業」実習生14名韓国へ中間帰国。</p>
28日(金)	<p>三池部長が「第16回九州・韓国経済交流会議」運営委員会出席のため、九州経済産業局を訪問。</p>
30日(日)	<p>「先進企業技術交流事業」実習生14名再入国後、各受入企業及び宿泊施設に移動。31日より各受入企業にて企業実習開始。</p>

月 日	事 項
9月 2日(水)	三池部長が「九韓 IT ビジネス連携事業のビジネスミッション」に参加。(於：釜山 BEXCO、4日まで)
7日(月)	三池部長が「平成21年度石川県・韓国 IT ビジネス商談会 in 大邱」に参加。(11日まで)
10日(木)	山崎常務理事が「第10回北陸・韓国経済交流会議」に出席。(於：江原道 Oak Valley、原州桐華医療機器団地、12日まで)
16日(水)	「第2回日韓産業技術フェア」開催。(於：ロッテホテルソウル、17日まで、飯島理事長・古川専務理事・山崎常務理事・北林部長出席)
17日(木)	「第2回日韓産業技術フェア」の一環として「第13回日韓中小企業商談会」開催。(於：ロッテホテルソウル、讃井所長・杉原職員出席)
18日(金)	「理工系大学院生研究支援事業 Summer Institute」閉講式開催。(於：ザ・リッツ・カールトン ソウル、日本側大学院生5名・古川専務理事・山崎常務理事・北林部長・韓日財団・JISTEC 出席)
10月 6日(火)	三池部長が韓国・光州にて開催の「第16回九州・韓国経済交流会議」に出席。(10日まで)
9日(金)	「韓国部品素材専用工団視察ツアー(訪韓ミッション)」事前説明会開催。(於：日韓財団会議室、飯島理事長・古川専務理事・山崎常務理事・北林部長出席)
19日(月)	「第3回日韓経済シンポジウム」開催。(社)日韓経済協会との共催、於：経団連会館) 190名強参加。
20日(火)	公認会計士の板垣氏による中間監査。(21日まで)
21日(水)	「韓国部品素材専用工団視察ツアー(訪韓ミッション)」開催。(23日まで、飯島理事長・古川専務理事・山崎常務理事・北林部長同行)
11月 4日(水)	「先進企業技術交流事業 企業実習」終了。5日、実習生、報告会及び送別会出席のため受入企業から移動。集合後、報告会準備。(於：リフレフォーラム(江東区大島)、三池部長・梶山職員参加)
6日(金)	報告会開催。(於：喜山倶楽部(日本教育会館内)、実習生14名・実習生受入企業担当者・日本語学校・韓日財団・古川専務理事・山崎常務理事・三池部長・梶山職員出席) 送別会開催。(於：喜山倶楽部(日本教育会館内)、実習生14名・駐日本国大韓民国大使館・経済産業省・実習生受入企業担当者・韓日財団他・古川専務理事・山崎常務理事・三池部長・大本職員・梶山職員出席) 7日、実習生韓国帰国。
12日(木)	第17回日韓・韓日両財団連絡協議会幹事会実務者会議開催。(於：韓日財団会議室、13日まで、日韓財団6名・韓日財団10名出席)
15日(日)	「環境・省エネルギー技術者専門セミナー」開講式開催。(於：ホテルニュー

月 日	事 項
20日(金)	タガワ(北九州市)、古川専務理事・北林部長出席) 「環境・省エネルギー技術者専門セミナー」閉講式開催。(於：ホテルニュー タガワ(北九州市)、北林部長出席)
12月14日(月)	三池部長が九韓ビジネス連携(バイオ産業)に関する調査ミッション(韓国晋 州・金海・釜山)に参加。(15日まで)
平成22年	
1月5日(火)	「理工系大学院生研究支援事業 Winter Institute」研究生35名来日。6日、 開講式開催。(於：つくば二の宮ハウス、古川専務理事・山崎常務理事・北林 部長出席)
12日(火)	三池部長が「先進企業技術交流事業」事業成果確認及び意見交換のため実習生 派遣企業4社(韓国ソウル・京畿道・忠北・大邱)を訪問。(14日まで)
15日(金)	「平成21年度先進企業技術交流事業評価懇談会」実施。(於：韓日財団会議 室、実習生・三池部長・韓日財団出席)
19日(火)	韓国中小企業技術指導事業(韓日財団単独事業)日本国内事業説明会開催。日 本の技術専門家約50名参加、協力機関として、挨拶。(於：品川プリンスホ テル、古川専務理事・山崎常務理事出席)
20日(水)	新春賀詞交歓会開催。(於：綱町三井倶楽部、日韓経済協会と共催、飯島理事 長・古川専務理事・山崎常務理事出席)
23日(土)	「理工系大学院生研究支援事業 Winter Institute」日本文化研修。(都内・日 帰り、北林部長同行)
25日(月)	次世代経営革新研修事業(韓日財団単独事業)で韓国から知識経済部他8名来 日、協力機関として日韓財団事業紹介。26日、(財)大田区産業振興協会訪問、 (株)三和電機製作所視察(北林部長同行)。
2月19日(金)	「理工系大学院生研究支援事業 Winter Institute」報告会及び修了式開催(韓 国理工系大学院生35名)。(於：ホテルグランド東雲(茨城県つくば市)、古川 専務理事・山崎常務理事・北林部長出席)20日、研究生韓国に帰国。
25日(木)	「第14回日韓中小企業セミナー・商談会」「第15回日韓中小企業セミナー・ 商談会」「日韓中小企業産業技術フォーラム」「環境・省エネルギー関連セミナ ー」の入札に関する第1回事業説明会開催。(於：日韓財団会議室)
26日(金)	外務省、経済産業省による立入検査。(於：日韓財団会議室)
3月1日(月)	外務省、経済産業省による立入検査。(於：日韓財団会議室)
25日(木)	平成21年度第3回評議員会及び第2回理事会開催。(於：日韓財団会議室) 第3回評議員会 審議事項 ①平成22年度事業計画(案)の件 ②平成22年度収支予算(案)の件

月 日	事 項
	<p style="text-align: center;">③退職金支給規則一部変更の件</p> <p>第2回理事会</p> <p>議決事項 第1号議案 平成22年度事業計画(案)承認の件  第2号議案 平成22年度収支予算(案)承認の件  第3号議案 評議員選出承認の件  第4号議案 退職金支給規則一部変更の件</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>